



本村さん

HAPPY BIRTHDAY

★10月生まれ★

松川さん

今井さん



1994年8月24日 第三郵便物承認
2023年12月26日発行（毎月12回2・4・6・8の日）通巻第5430号

川口市元郷1の10の13 郵便振替00100-8-411223
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 頒価 50円



久保さん



野口さん



川邊さん



福寿谷さん



Sさん



(職員)吉田さん



堀口さん



Mさん



小林さん



齋藤さん



犬塚さん



(職員)松崎さん

★11月生まれ★



宮川さん



飯田さん



広瀬さん



塩竈さん



吾孫子さん



豊島さん



Sさん



佐藤さん



(職員)鈴木さん



(職員)福島さん



(職員)青木さん

〈編集後記〉10月が過ぎ私も一つ年齢を重ねました。ふれんずでも私自身の誕生日を覚えてくれている方も多く、当日には沢山の「おめでとう！」を頂きとても嬉しかった事を覚えています。今回ふれんずの誕生日の方達は写真を撮らせてほしいとお願いすると恥ずかしさを隠すために変顔をしたり、「どんな感じに撮れた？」と自分の納得するまで一枚を完成させたり等、また新たな一面を見る事が出来ました。ここに映っている写真は最高の一枚になっているのでしょうか？また次号の誕生日の方も楽しみに！

ふれんず広報委員 松崎 李星

～ そよ風のように街に出よう～

S S T L

つくばね通信



社会福祉法人つくばね会

代表 千葉県我孫子市都部新田37-2

TEL 04-7187-1944

FAX 04-7187-1947

HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>

編集・発行：けやき社会センター・はるか

おおぼん・ふれんず

私が福祉と出会ったのはずいぶん年を取ってからです。ほぼ初めて出会う障害のある方々と職員さんたち。支援の知識はゼロからというよりもマイナスからでした。

そんな当時の私が「ん？」と感じたことは、職員が自分の名前に「さん」をつけて利用者の方と会話をすることでした。例えば、「明日ヒロセさんはお休みします」「その仕事はヒロセさんがしますよ」というように。大先輩がさりげなく使うその言い方はいつもやさしく、利用者に寄りそい、とても温かなものでした。

さて時がたち、私の周りでは同じような声かけをする職員が増えているように感じます。その背景は自分なりに解答を得ていたのですが、新聞から腑に落ちるある哲学者のコラムと出会いました。自分のことを家族に「おとうさんは」と言ってしまい、照れがあったが慣れてしまったこと、でも自分のことを「部長さんは・・・」と社員に言ったりはしないこと、例外として「先生」が思いつき、自分を先生と呼ぶのは自然であると分析していました。共通するのは立場が弱い人に対して護り導くべき者の自称であり、同時に強い力を行使できる者の自称でもあることを心に留めておくべきだとまとめていて、はっとさせられました。私は深く考えず、同僚や友人、近隣の人に使わない言葉かけは障害のある人にも使わない、単純にさんづけは相手に使うものという気持ちだけです。ただ私が利用者の家族だったら、前述のような声かけには違和感があるかもしれませんが・・・。

相手にはさんをつけましようと思いますが、自分のことをどう表現するかは教わっていませんね。福祉の仕事は正解がないと言われます。私はこれからも「私は」と言って利用者に接しますが、「ヒロセさんは」と言う人を否定することではなく、気づきや考えるきっかけとなってもらえるといいなと思います。

(けやき社会センター管理者 広瀬 美紀)

🍷おいしい給食で幸せいっぱい！！🍷

けやき社会センターに通う利用者の方も職員も皆楽しみにしていることの一つ…そう、それは…おいしい給食です！！家庭的な味付けで野菜もたっぷり、ボリュームもたっぷり。とてもおいしいのです。おいしくてつい食べ過ぎてしまう人も多いのではないのでしょうか？ちなみに私もそのうちの一人です。現在4名の厨房職員で給食を作ってくれています。利用者の皆さんも厨房さん（厨房職員のこと）が大好き！休憩時にはお店のバーのカウンターのように…？麦茶を飲みながら厨房さんと話している利用者の方も多くいます。献立表のチェックも忘れません。そして給食の開始時間前から食堂に行列ができればはじめ、給食開始時間のカウントダウンが行われる日も多々あります。繰り返しになりますが、みんなが毎日楽しみにしているほど、とってもおいしいのです。けやき社会センターの給食の魅力の一つとして、週に一度パン作業班で利用者の方が作ったパンが給食に出ます。パンの日は「今日はパンの日だ！」「私が作ったのもあるよ！」など嬉し楽しい会話も聞こえてきます。またパンの日以外にも、年2回リクエスト給食も行っています。利用者の皆さんや職員からもアンケートをとり人気メニューが給食に並ぶのです。1回目は夏だったのでかき氷を出したり、2回目は冬なのでクリスマスメニューが並ぶ予定です。その他にもおおばんのお弁当を注文して食べる日や、コンビニで好きな食べ物を買って行って食べる日もあります。けやきに来ればおいしい給食が食べられる！作業を頑張った後はおいしい給食の時間だ！と思いながら過ごしている方も多いのではないのでしょうか。食べることが大好きな私は、毎日給食の時間が楽しみです！そして栄養たっぷりのおいしい給食を毎日食べることができてとても幸せです。

けやき社会センター（三崎 彩夏）

令和5年度 千葉県サービス管理責任者更新研修を受講してきました！

11月10（金）幕張にてサービス管理責任者更新研修を受講してきました。
「通称：サビ管」と呼ばれている資格ですが、主な役割として障害のある方の生活環境や特性に応じた支援を提供できるよう、サービスを管理、関係機関との調整、支援員への指導やアドバイスを行う職種です。

研修当日は千葉県の対象となる職員の方々（医療関係、介護関係、相談支援等）、約150名が会場に集まり、グループワークを中心に障害者福祉施策の最新の動向を学び、知識のアップデートを行いました。

グループワークではテーマ「記録の活用について」や「日常業務での助言・指導や人材育成について」等、8つのテーマ全ての意見を出し合い、一つ一つの結論を導き出すという、とても貴重で内容の濃い時間を過ごすことが出来ました。

また人材育成の講義では

①やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かぬ。②話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。

③やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。山本五十六の言葉を紹介されました。①新人、②若手、③中堅と置き換え、人材育成を行う上でとても重要な土台となる言葉であると感じました。

共に働く福祉人材は自事業所の「財産＝人財」であるとお話がありました。福祉業界は人手不足に陥っています。私自身が学んだこと、また現状を理解し、今後のサービス向上とともに、共に働く福祉人材をサポートし、一緒に成長していけるよう進んでいきたいと思えます。

けやき社会センター（吉田 寛貴）

福祉の世界へシフト

2008年リーマンショックの影響で私の実家である建築会社が廃業しました。

同業他社も売り上げに苦しんでいた状況だったので、私は思い切って障害福祉の世界に飛び込みました。そしてハローワークでの求職活動中、一通の求人票に目が留まりました。

「障害者グループホームの夜勤者募集・勤務は週一からok・仮眠休憩あり・実働6時間!？」私は浅はかにも、「とりあえず週一やってみるか！日中ゆっくりと求職活動できるし・・・」そう思ったのです。

早々、夜勤が始まると、静まり返った夜中の2時、あなたの叫び声、職員室のドアを激しく叩く音そして「タバコください！」あなたが呼んだ救急車のけたたましいサイレン音

あなたの生きづらさ、寂しさ、くやしき、辛さ、怒りを表現する言動に接し、私は衝撃を受けました。そして、あなたをもっと知りたいと思いました。なぜそのような行動をとるのか？

どうして？なぜ？当時、知識経験もない私はそこからが始まりでした。

ここでは言えないことが、いろいろあったけどコミュニケーションを取り続け、関係性を築いた。あなたは言った「ありがとう」の一言。うれしかったなあ。あなたは優しくなった。あなたに出会えてよかった。「人間万事塞翁が馬」だね。

追伸 今、縁あってね、つくばね会にいます。僕はね、つくばね会という大河の一滴になりたいと思っているよ。
（サポートセンターけやき 加賀 邦彦）



はるか就労移行 車いすバスケットボール体験



はるか移行では、一般就労を目指してチームワークや報連相等のビジネスマナーや、作業能力向上のための訓練に加え、外部機関と連携したプログラムを提供しています。先日、千葉県の事業であるパラアスリート等学校訪問事業が近隣の湖北特別支援学校で行われ、支援学校の生徒さんや地域の福祉事業所の方と一緒に参加してきました。今回は車いすバスケットボールがテーマで、プロバスケットボールチームである「千葉ホークス」の選手がお見えになり、競技用車いすに乗せて頂いた後、プロの方と試合をしました。今回私は初めて競技用車いすに乗りましたが、スピードに押され前に倒れそうになってしまい、とても怖かったです。一方ではるかの利用者は皆とても上手に乗りこなしていて、方向転換やブレーキもスムーズに行なっていました。試合ではプロの選手1人に対しはるかの利用者含め10人のチームで対決しましたが、選手の方のスピードやフェイントに阻まれ、なかなか追いつくことが出来ません。しかし果敢に選手に向かっていく皆さんの様子を見て、私も思わず「頑張れー！！」と応援に熱が入りました。試合終了後に利用者に感想を伺うと、「車いすバスケは意外と迫力があって、見ているだけでも楽しかった。実際やってみたら運転が大変だったし、ゴールが高くてボールが届かなかった。」「スピードをつけないとちょっとした段差でつまずいてしまい、車いすの方の大変さが分かった」という声が聞かれました。今回はスポーツ

を楽しみながら、違う障害を抱える人に対する理解を深めることができました。障害のある方同士が支えあう、『ピアサポート』の精神を学ぶとても良い機会になったと感じています。今後も外部機関と連携したプログラムをどんどん取り入れたいと思います。
（はるか 中林 佑樹）



けやきは旅行で盛り上がってます

今年は何やかやも3年ぶりに一泊旅行を計画しました。行き先は日光、おさるランドと東武ワールドスクウェアです。3グループに分けましたが、行き先、泊るホテルは同じです。（予約担当、がんばりましたね）

さて11月初めのグループですが、おさるランドでは「パイレーツオブカリビアン」のショーがあり、とぼけたおさるの演技に大笑い。ホテルではバイキングの食事を満喫（盛り過ぎの人も・・・）、お風呂で手足のびのび、ふとんはふかふか。

翌日のワールドスクウェアでは世界各地のミニチュアを見て歩きました。2日間バスの旅、トイレ休憩、行き先でのおいしい食事、ホテルの雰囲気や日光の街並みなど、仕事を忘れて利用者と職員も秋の日のいい思い出になりました。



（けやき社会センター 広瀬 美紀）

おおばん旅行 2023

今年のおおばん旅行は福島県いわき市へ。着いて早速、小名浜港で獲れた美味しい海鮮丼をお昼ご飯に食べ水族館アクアマリンふくしまへ移動。様々な魚や泳ぐトド、アザラシ・カワウソを見て「トドが鳴いたよ!」「アザラシが泳いでいる!」「カワウソ可愛い~!」と大盛り上がり。写真を撮る手が止まらない利用者の姿も見られました。水族館を楽しんだ後は宿泊先へ。夕食に種類豊富なビュッフェを堪能し、夜はフラダンスショーを観覧。迫力あるファイヤーダンスや優雅なフラダンスを見て嬉しそうでした。2日目はいわき震災伝承みらい館へ。東日本大震災で受けた被害の映像や写真を見た際、「こんなに大変だったんだね」「あんな風に車が流されてしまうなんて」と衝撃を受けつつも「大地震が来た時は...」「避難する時に注意する事は...」と利用者・職員共に真剣に学ぶ姿が見られ、見学後は津波被害があった海まで移動し、震災で亡くなられた方達に皆で手を合わせ、御冥福を祈りました。旅行の最後はいわきララミュウでお土産を購入。「何買った?」「可愛いお土産見つけた!」と買った物を見せ合ったりして盛り上がり、帰りの車内でも「ご飯美味しかったね」「ダンスすごかった!」と話しても尽きなく、今年の旅行も良い思い出となったな...と思いました。



（おおばん 宮澤 由衣）

はるか一泊旅行



つくばね会に入職して初めての1泊旅行を体験しました!心配と楽しみが入り交じった心境の中、牛久阿見ICから高速に乗りいざ福島へ、途中のサービスエリアでは人生初のスターバックコーヒを頼む方もいらっしゃいました。いつも以上の笑顔で嬉しそうに飲んでいました。ちなみに



何を飲んでいるのか聞くと「ホワイトモカです!!」と言っていました。スパリゾートハワイアンズでは新品の水着に身を包み数十年ぶりにプールに入り、大はしゃぎの方もいらっしゃいました。皆さん潜ったり、泳いだりと楽しんでいました。

旅を終えて、「終わっちゃった」との声に皆さん非日常を楽しめたのだと感じました。すでに来年の旅行も楽しみにしている方もいました。

（はるか 武藤 瑞穂）

おおばんの様子 ~秋?から冬へ~

昨日まで夏だったのに11月に入り秋を飛ばして冬がやってきました。しかしまだまだ日中は21℃まで上がる日もあり、スイッチがうまく切り替わりません。半袖の人、フリースの人、短パンの人、ニット帽をかぶる人、暑いのか?寒いのか?段々どどの声掛けが正しいのか分からなくなってきてしまいました。今年は猛暑で夏野菜が2~3か月遅れて収穫期を迎えるなど、毎年少しずつ感じていた四季の移り変わりの変化（春秋が短くなっていること）を実感する年でした。公園清掃では落ち葉を掃いて集める作業が忙しくなる時期ですが、掃きながらきれいに色づく落ち葉に秋を感じたものです。今年はきれいな紅葉は見られず、茶色に縮れた落ち葉が多いように感じます。地球環境を守るための取り組みとして、お弁当班では廃油や生ごみを畑の肥料にするなどの取り組みを行っています。利用者の皆もゴミの分別には細かく、紙やプラなどの資源ごみをしっかり分けてくれています。現在、感染症対策としておおばん弁当には使い捨て容器を使用していますが、コロナ前に検討していた回収型の容器に変えてごみの削減を進めていきたいと考えています。近頃のおおばんは畑のサツマイモの収穫を終え、石焼き芋機でバザー用の試し焼き「今年のお芋もおいしいね!」とほくほく笑顔いっぱいです。11月に楽しみにしていた福島への旅行も無事終了。皆の心はクリスマス!忘年会!心はわくわくするイベントに向かっていますが、忘れることなかれ!年末大掃除が待っています。1年の汚れ、力を合わせてしっかり落とし、ピカピカのおおばんで新しい年を迎えられたら幸せです。

おおばん
サツマイモ畑と
はたらく様子



ふれんず~子供達の様子~

あっという間に夏休みも終わり、子供達の学校生活（新学期）がスタートしました。厳しい残暑の一方、ふれんずでは夏休みに使った水遊びの道具（水鉄砲や着替えにタオル）を片付けて良いものかを悩んでいましたが、暑さには勝てず水遊びの延長を決断しました。9月初旬は、学校後にふれんずを利用する日課に慣れず、場面の切り替えがスムーズに出来ない事が多く見られるため、事前に予定を伝える事は勿論、ボードを使い視覚からの情報でも伝えました。それでも、切り替えが難しく職員は日々試行錯誤しながら、支援させていただきました。支援をする際に、お子さんが今一番したい事に着目し、それを理解し共感する事から始めました。繰り返し支援をし（声かけのタイミングや内容を変えつつ）、さらに日数が経過する事で、切り替えが上手に出来るようになりました。そこには、ご家庭の協力とお子さんの努力が加わった結果だと思えます。

話は変わり毎年恒例の「サツマイモ掘り」のイベントへ・・・おおばん（法人内事業所）が、手入れをしている畑にお邪魔させていただきました。長靴を持参し張り切っているお子さんもいました。さらに軍手をし、準備万端!!!次々とサツマイモを掘り起こし、サツマイモを手に取りニコニコ笑顔に。10月31日は、「ハロウィン」のイベントを開きました。先月より、ハロウィン用の塗り絵（ハロウィンカラーを考え、上手に塗っていました。）に取り組んでもらい、展示をし、飾りつけもしました。前回は、カラフルなドーナツでしたが、今回はピザ作りを企画し、仕上げは自らの好みに合わせたトッピングをし、焼き上げました。最後に仮装を楽しみながら記念撮影をしました。高校3年生にとっては、最後のハロウィンになりました。残り数か月で卒業を迎えられますが、思い出に残るイベントを計画し、盛り上げて行きたいと思えます。

（ふれんず 栗原 大介）



<職員として思う津久井やまゆり園事件～連載パート1>

はじめに
津久井やまゆり園事件とは、2016年7月26日未明、神奈川県相模原市緑区にある知的障害者入所施設「津久井やまゆり園」に元同施設職員「植松 聖（うえまつ さとし）」が、刃物を所持して侵入し、入所者19名を刺殺、入所者・職員26人に重軽傷を負わせた事件。（植松聖は2020年3月に死刑判決が確定している）

7年前、この事件のニュースを耳にした時の衝撃を今でも忘れることができません。

私は20歳で相模原市にある民間の知的障害者入所施設に職員として入社し、当時県立であった津久井やまゆり園には民間では支援困難だった利用者の方が何人か転所されていたこともあり、その方たちが無事であるのか、津久井やまゆり園の庭で手を振って別れたあの日がリアルに思い出され震えが止まりませんでした。その後も被害者の実名報道を避ける状況が続き、いまだに安否が確認できずにいます。

調べれば調べるほど、知ろうとすれば知ろうとするほど、様々な問題が絡んでいるこの事件を理解する困難さにぶち当たり、人が人を差別する感情や現代社会の問題について考えさせられます。その度に私の中に生まれる「その人の命や人生はその人だけのものである」という思いは、私が私の命や人生の価値を他人に決められたくないのと同様に、障害者であることを理由に命や人生を他人に奪われるということは絶対に認められないという信念に近い感情です。

植松死刑囚は障害者を養い続けることは社会の負担であり意思疎通の取れない重度障害者は生きる価値がないという持論を持ち「日本国と世界の為」という信念を掲げこの事件を起こしました。そしてその思いはネット上で一部の人から共感・支持され展開されていきました。とても自分本位で差別的な感情に大きな怒りを感じます。論じられ続けていますが、もし身近な大切な存在が他人からその命の価値を不要と判断され失ったとしたら、同じように共感できるのでしょうか？それは障害者だからと言って周りが身勝手に下していい判断ではありません。想像力をもって生きて欲しい、人の気持ちに無関心でないで欲しいと切に願います。

私が障害者と共に日々を送り32年、支援を行う中で理不尽だと感じる行動や暴力や言動に触れることもありました。思いが通じ合わず辛さや苦しさを感じることもありましたが、きれいごとかもしれませんが少しでも相手の気持ちに寄り添えたと感じた時、受け入れてもらった時、その方の人生に存在出来たことに喜びを感じこの仕事を続けています。植松死刑囚にも同じように感じた時間はあったのではないかと彼が自己を認めてもらうために起こした行動を抑制する手立てはなかったのか？と深く考えてしまいます。この事件は異常者が起こした犯罪ではなく、彼の生きてきた人生や社会的環境が彼の思考を作り上げていき、障害者を殺めるというあり得ない行為につながっていったのだと私は考えています。私たち職員が植松死刑囚と同じような考えにたどり着くことが起きないのかと、障害者本人やその家族、世の中に不安を与えているのではないかと共に働く仲間や自分の行動や言動は？思考は？日々築き上げてきた信頼関係を根本から揺るがすこの事件、あの日から障害者と共にある自分について問いかけ続ける日々が続いています。夜勤帯の入所施設は世の中が深い眠りについている時間に、職員が利用者を支援し見守っている静かで慌ただしい夜の時間です。あの静かな夜、誰もが予想もしていなかった惨劇が起きました。職員である私たちにできることは何か、障害者と共にある私たちが持ち続けなければいけない大切な思いは何か、繰り返し考え続け、この事件を忘れずに繋げていかなければと思っています。（おおぼん 栗原 千鶴）

今年は津久井やまゆり園の事件を考える記事を連載していきます。勤続が浅い職員、長い職員、様々な立場からこの事件について考え、掲載していきたいと思っております。未熟な記事になる回もあるかと存じますが「共に生きる」を理念として掲げるつくばね会職員としてしっかり発信していきたいと考えています。

つくばね会理念 共に生きる

今年度の始め、つくばね会理念「共に生きる」をどのように捉えているか、法人職員全員にアンケートを取りました。ホームページでの掲載がこれまでの広報委員会で検討されていましたが、何らかの形で発信できたらと考え、まずはこちらのページを「共に生きる」の掲載場所とさせていただきました。それぞれの職員が思う「共に生きる」をご覧ください。



つくばね会職員【本部・けやき社会センター・はるか・おおぼん・ふれんず・サポートセンターけやき・楓・グループホーム空・グループホーム地球】全50人以上から回収した「共に生きる」。皆さん、共感できるコメントはありましたか？「共に生きるを一言で」とお願いしたため、語りつくせない思いがある文章となっています。これからも繰り返し問いかけ続けていきます。つくばね会の大切な理念として、揺ぎ無い思いを持ち続けて行って欲しいと思っております。